茨城支部報
(No.2)

FOUNDED 1905

（社） 日本山岳会茨城支部（JAC Ibaraki）
Ibaraki Section of the Japanese Alpine Club

2009(平成 21)年 12 月 1 日発行

発行元住所　〒305-0045
つくば市梅園 2-21-21　浅野勝己方

目　　次

p. 1‥‥地図で見る立山・剣岳
p. 4‥‥第 1 回海外山行
p. 6‥‥2008 年度の活動報告
p. 6‥‥2009 年度の活動及び予定
p. 8‥‥2008 年度会計報告と 2009 年度予算
p. 9‥‥茨城支部規約
p. 10‥‥茨城支部役員名簿
p. 11‥‥茨城支部会員名簿
p. 12‥‥新入会員からのご挨拶
p. 16‥‥3 支部合同懇親山行
p. 16‥‥野外研修会
p. 18‥‥支部山行
p. 21‥‥特別山行
p. 23‥‥個人山行
p. 31‥‥会員雑感
p. 34‥‥(故)長通元氏への弔辞

地図で見る立山・剣岳

茨城支部長　　星埜 由尚

立山・剱岳は信仰の山である。陸地測量部測量手柴崎芳太郎が明治 40 年に三角点の設置のため剱岳に苦労の末登頂に成功し、初登頂と思ったところ 1000 年も前の錫杖や剱を発見したことは、小説「剱岳点の記」にも描かれている。

柴崎芳太郎の登頂から百年、小説「剱岳点の記」が映画化され、迫力ある映像とともに、明治の測量官たちの地道な使命感と労苦が描かれ、測量・地図の理解・普及にも多大な貢献となった。山岳映画としての素晴らしさとともに、測量・地図に長年携わった私にとっても誠に有り難いことである。観客数は 200 万人を突破し、大変な盛況であることは、誠に喜ばしい。

映画の成功に触発され、立山・剱岳の地図を少し調べてみたのでご紹介する。

江戸時代後期から明治までの立山・剱岳の地図

近代測量以前には、立山・剱岳はどのように描かれていたのであろうか。江戸時代には加賀藩が信濃との国境の管理の一環として黒部・立山「奥山廻り御用」を地元の蘆峅寺に命じ、奥山の取り締まりと調査をさせた。「奥山廻り」は、立山・黒部の奥深く踏査し、報告書とともに地図を藩に提出している。越中射水郡高木村の石黒信由（1760～1836)は和算・天文に明るく、加賀藩の命により加賀･越中･能登を測量し地図を作成した。同時期に伊能忠敬の全国測量が行われ、越中の海岸線が測量され、立山･剱岳も伊能中図には描かれている。石黒信由は 1803 年の伊能忠敬第四次測量の際には、伊能忠敬を訪ねている。天保期には幕府の命により国絵図が作成され、越中国絵図にも立山･剱岳は特徴的に描かれている。

図 1　越中国郡絵図［新川郡之部］（富山市郷土博物館蔵）

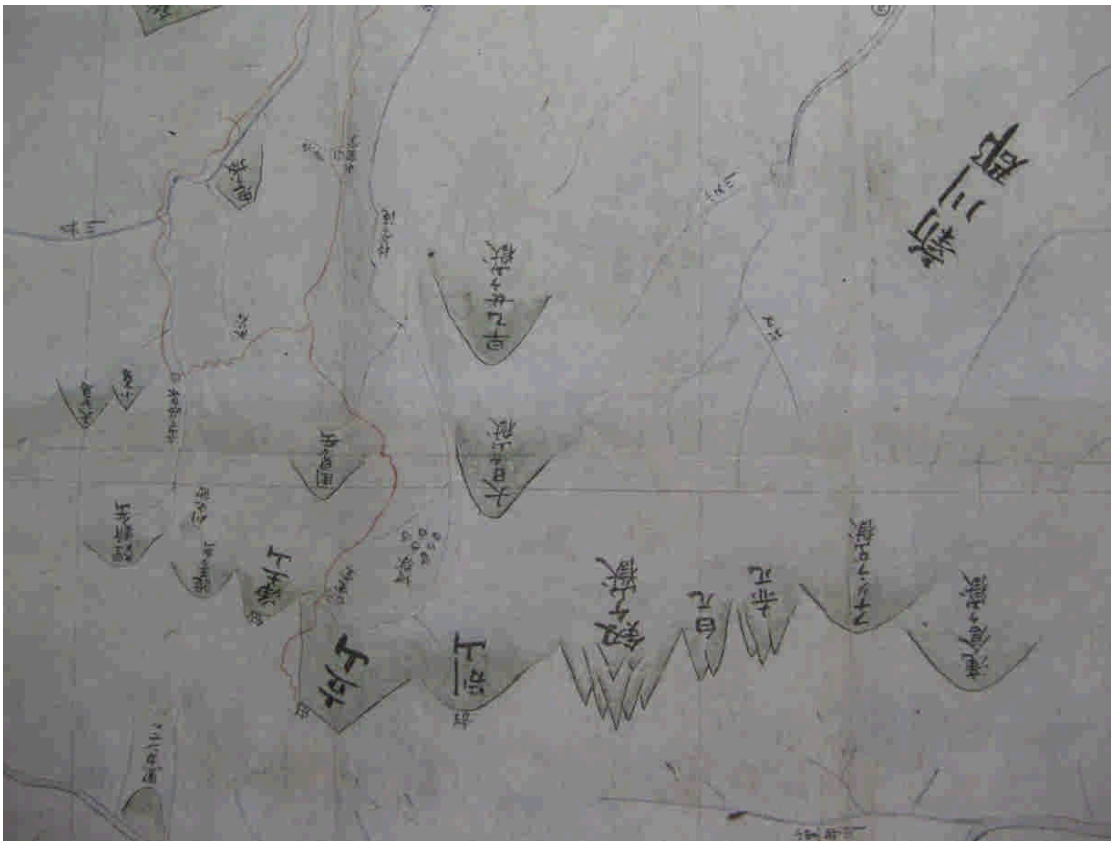


図 2　越中四郡村々組分絵図（石黒信由）　（高樹会蔵）

これら江戸時代後期の各種の地図を見ると、伊能図を除き、立山･剱岳の描き方には一定の様式がある。即ち、例外なく立山･剱岳は他の山々と異なり、多くは白く彩色され、立山は頂

上がいくつかの峰からなる穏やかな山体に、剱岳はまさに剣が連なる異様な形に描かれている。これは、立山信仰が越中の人びとに深く浸透していたからであろう。石黒信由は、科学的精神を持ち実測により地図を作成した測量家であるが、立山信仰の影響下にあったことを物語る。「奥山廻り」の地図の中には、剱岳に実在しない塔が描かれているものもあり、「立山曼荼羅」の影響が見られる。

一方、伊能図には、立山・剱岳が描かれ、その位置を越中から能登に至る各所から交会法により見通して決めている。立山・剱岳は伊能図に描かれた他の山々とその描き方は同じで、特別な描き方をしていない。伊能忠敬は、立山・剱岳からは遠い人であり、立山信仰の影響は受けていなかったため、特別な描き方をすることはなかったのであろう。

明治維新後、近代測量技術の導入により三角測量に基づく地形図が国家により作成されるようになった。立山・剱岳の地域は、映画「剱岳点の記」にも台詞があるように、地形の険しさから、三角点の設置に困難を極め、近代的地形図の整備が遅れた地域であった。明治 26 年に 20 万分 1 輯製図が作製されたが、この輯製図は、伊能図や国絵図などを利用して編集したものであり、三角測量によるものではなかった。そのため、等高線ではなくケバ方式で立体表現がされており、剱岳の位置なども精度が悪く、立山や他の山とのの関係も不正確である。

その後、明治 40 年(1907)の柴崎芳太郎らによるこの一帯の三角点の設置を待って初めて近代測量による地形図が大正元年(1912)に刊行された。5 万分の 1 縮尺の等高線で表された地形図により、立山・剱岳の地域の地形と山々の位置関係、高さが明らかになった。現在の地形図と比較すると、平板測量で描かれたため、剱沢や弥陀ヶ原の火山斜面などその表現には粗さが目立つが、柴崎芳太郎らの三角点設置が地図づくりに大いに生かされたわけである。

以上立山・剱岳の地図について、江戸時代からその概略をご紹介したが、紙数の関係もあり、機会があれば、立山曼荼羅や現代の地図もご紹介したい。

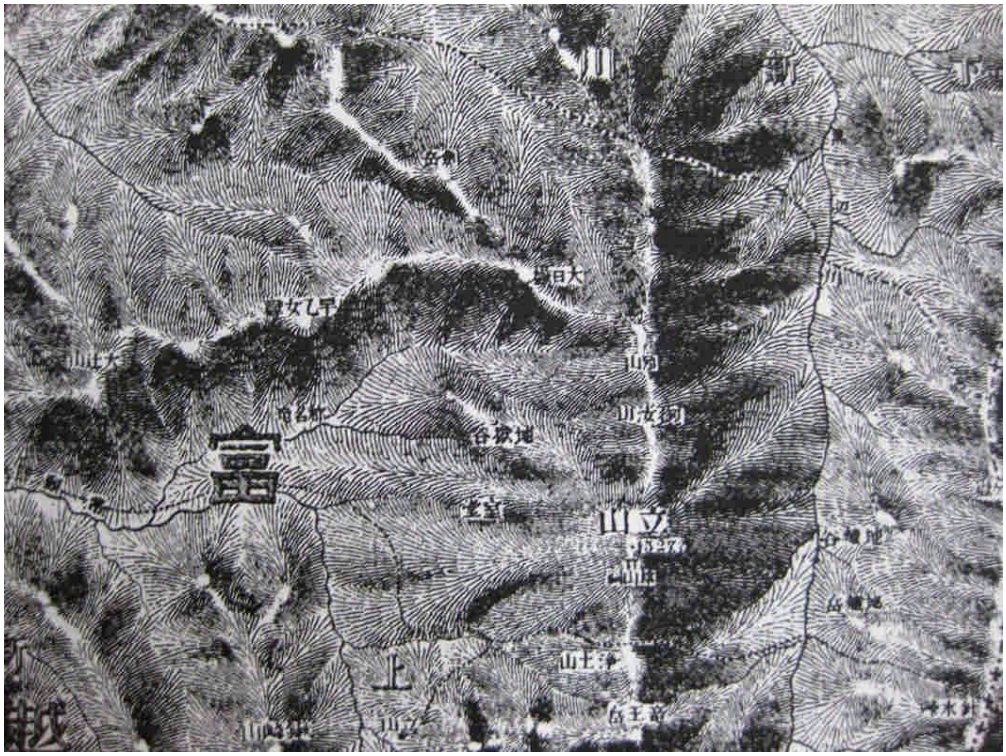


図 3　20 万分 1 輯製図(明治 23 年輯製)　国土地理院蔵

図４　５万分１地形図（大正元年測図）国土地理院蔵

茨城支部 第１回 海外山行

（韓国）智異山と漢拏山

荒木 浩二

茨城支部として第 1 回となる海外山行を実施しようとの意向がまとまり中国（台湾）の玉山と雪山を目指すこととなり、準備の富士山山行、事務手続きの一部を終わらせた時に現地が台風により行動不適となった。これを受けて打合せの結果、韓国の山に変更して実行し、意図を達成することが出来た。とりあえず、ここで報告するものとする。計画の変更により、参加者は 10 名から 7 名に、一部の方の入れ替りがあつた。

期日：平成 21 年(2009)10 月 12 日(月)～16 日

参加者：

会員：山本幸生、西川元禧、高木康雄、荒木浩二

賛同者：伊藤正之、松井洋子、天明裕美子

ガイド：キム・ジンソク

平成 21 年 10 月 12 日(月)、成田空港に集結し、釜山で現地旅程管理者(ガイド)1 名による出迎えを受け、車(専用車でこの後も同様)で移動し晋州のホテル泊。ガイドの日本語は発音が独特なので慣れるまでは円滑とはいかなかった。

翌日は晴。内大里登山口から所々の紅葉を見ながら細石山荘へ登り、その山荘で自炊による夕食の後、宿泊。焼酎を飲む人が可成おられた。

10 月 14 日、3 日目は夜半は雨だったがガスとなり、自炊の朝食を済ませてヘッドランプ使用で稜線を登る。昨日と同様の岩塊と岩場に階段を進み風とガスの中、智異山群の最高点である天王峰へ達する。

下りに入り、途中で源流の水を頂いてから進んでいる内に見通しが良くなり晴れてきて平野が目に入るようになる。1 名がカロリー切れで力が無くなり幾分遅くはなったが下山口の中山里に着く。ひと山は登ったとのことで乾杯の後に昼食。次いで車で移動し、釜山空港から

西帰浦市のホテルへ。夕食は自炊をする必要も無くなった為か、飲んで食べて喋っての２時間であった。

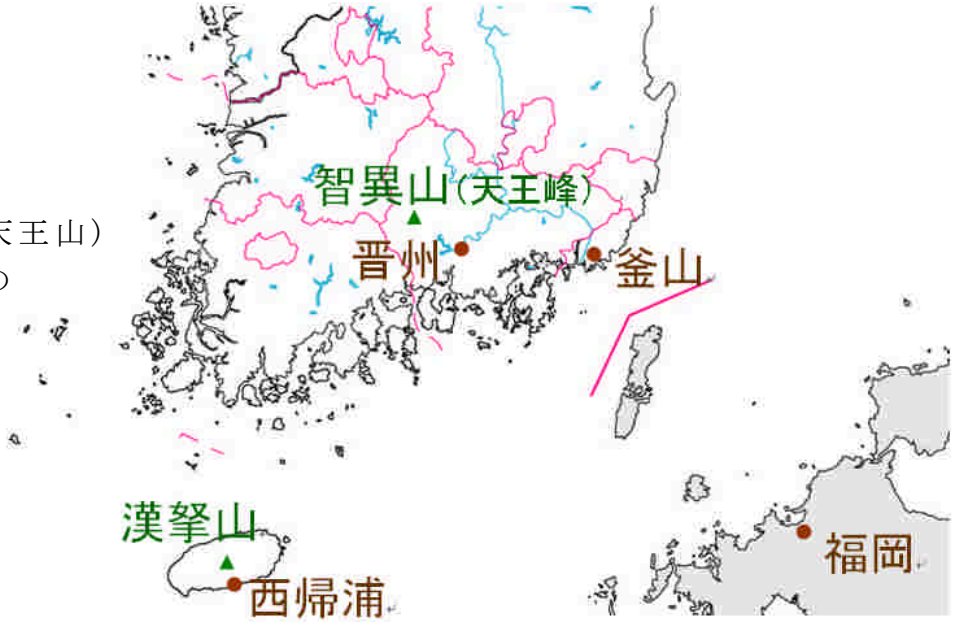
智異山群天王峰

翌、10 月 15 日は晴。薄暗い中を車で移動して街なかの食堂で朝食後、城板岳登山口に着き登りだす。前２日間同様の足元状況を進むが漢拏山東稜頂上近くになると、鉄骨と角材の階段が 100m 以上続いていた。頂上は多くの人がいて各々派手に楽しんでいるのが心に残った。下山に入り、見映えの良い岩壁と紅葉の中を過ぎて観音寺下山口から車で前夜と同じホテルへ。夕食時は前日に輪をかけた賑やかさであった。

５日目の最終日も晴。車で移動して世界遺産(自然)を回って見学し、韓国の歴史、言語、登山観等の一端も知った後、市内でお土産を買って済州空港でガイドと別れて無事に成田空港へ戻り、解散となった。

一旦中断した山行を再起させ、登頂を成功に導いた皆様に感謝申し上げます。

智異山(天王山)と漢拏山の概略位置



登山祝賀パーティー

参加者記念写真

2008（平成 20）年度の活動報告

茨城支部総務委員　　高木 康雄

講演会（会員以外の一般市民にも公開）

第 5 回（08/5/14）「崑崙山脈西部の山旅と高所順応について」　川久保会員

第 6 回（08/6/15）「地図と景観」星埜支部長

第 7 回（08/11/9）「日本山岳会の自然保護活動の取組について」和田会員

第 8 回（09/1/18）「パーキンソン病とその脳科学について」奥井会員

第 9 回（09/3/14）「キノコは山の幸」杉山会員

野外研修会（会員以外の一般市民にも公開）

第 1 回（08/9/20）自然観察会「西金砂山を訪ねる」（森林インストラクター）堀内会員

支部山行

第 5 回（08/4/20）高鈴山から金山百体観音へ

第 6 回（08/10/8）古道・羽鳥道から筑波山へ

第 7 回（08/11/22～23）阿武隈山地･片曽根山、鎌倉岳、檜山登山

第 8 回（09/2/18）真壁富士探索山行

第 9 回（09/3/28）奥多摩・笹尾根縦走

3 支部（栃木・茨城・千葉）合同懇親山行

第 2 回（09/2/7～8）千葉・富山登山と鋸山登山（千葉支部担当）

2009（平成 21）年度の活動及び予定

茨城支部総務委員　　高木 康雄

総会（第 3 回）

2009 年 6 月 14 日（日）土浦うららビル No.1 講座室にて、16 人参加で行われた。主な議題は以下の通りである。

1. 任期満了に伴う役員改選は、支部長以下、現役員の再任が満場一致で可決。
2. 20 年度事業・会計報告と 21 年度事業・会計計画の承認
3. 3 支部懇親山行（茨城支部担当）のプロジェクトチームの立ち上げ
4. 第 1 回海外登山の実施
5. その他山行計画

総会後、奥井サロンでの親睦会が盛大に行われた。

講演会（会員以外の一般市民にも公開）

第 10 回（09/5/17）「2008 年ペルーアンデス登山報告」（茨城県山岳連盟）椎名正明氏（下部写真参照）

第 11 回（09/6/14）「世界の山旅」（アルパイン・ツアー・サービス）

第 12 回（09/11/15）「日本の山・世界の山」小疇尚千葉支部会員（明治大学名誉教授）

第 13 回（10/1/17）「剣岳の三角点」山田会員

第 14 回（10/ 3 月中旬）タイトル、講師　未定

野外研修会（会員以外の一般市民にも公開）

第 2 回（09/4/30）春の植物観察会「西金砂山」（森林インストラクター）堀内会員

第 3 回（09/6/27）夏の植物観察会「御前山」（森林インストラクター）堀内会員

第 4 回（09/10/25～26）「南会津紅葉とキノコ狩り体験教室」杉山会員

（第 10 回例会講演会）　2009.5.17
「2008 年ペルーアンデス登山報告」
（茨城県山岳連盟）椎名正明氏の講演

支部山行

第 10 回（09/4/30～5/1）西金砂山、三鈷室山、妙見山登山

第 11 回（09/8/14～15）富士登山。山頂測候所で茨城支部浅野事務局長（NPO 富士山測候所を活用する会理事長）による高山病講座を受講

以後、隔月毎に支部山行を実施予定（日程と山域は未定）

第 1 回海外登山（09/10/12～16）韓国最高峰の漢拏山と第 2 の高峰、智異山に登山

特別山行（09/8/29～30）

茨城県自閉症協会協力登山（磐梯山）
（21 ページ参照）

3 支部（栃木・千葉・茨城）合同懇親山行

第 3 回（10/2/6～7）筑波山登山を予定（茨城支部担当）

椎名講師を囲んで
茨城県山岳連盟の役員諸氏と共に

2008（平成 20）年度会計報告と 2009（平成 21）年度予算

茨城支部経理委員　　西川 元禧

2008（平成 20）年度会計報告

収　入　の　部	
前期より繰越	５８，０３３円
支　部　費	３３，０００円
支部助成金	７７，０００円
その他収入	２０，９９２円
収 入 合 計	１８９，０２５円

支　出　の　部	
会　場　費	１８，７９０円
郵　送　料	１７，３４０円
印　刷　費	１０，９８５円
支部報発行費	３３，６００円
事務用品・雑費	３，１１０円
支 出 合 計	８３，８２５円

差引次期へ繰越	１０５，２００円

＊平成２０年度会計報告については、監事より適正である旨の監査意見を受けています

2009（平成 21）年度予算

収　入　の　部	
前期より繰越	１０５，２００円
支　部　費	３５，０００円
支部助成金	８０，０００円
その他収入	０円
収 入 合 計	２２０，２００円

支　出　の　部	
会　場　費	３０，０００円
郵　送　料	２０，０００円
印　刷　費	５０，０００円
支部報発行費	３５，０００円
事務用品・雑費	２０，０００円
支 出 合 計	１５５，０００円

差引次期へ繰越	６５，２００円

（社団法人）日本山岳会茨城支部規約

（名称）

第1条　本支部は、社団法人日本山岳会茨城支部（Ibaraki Section of the Japanese Alpine Club）という。

（事務所）

第2条　本支部は、事務所を茨城県内に置く。

（目的および事業）

第3条　本支部は日本山岳会定款第3条に定められた目的に則り次の事業を行う

(1) 会員相互の親睦の為の会合、山行
(2) 登山の指導奨励に必要な集会、研究会および講習会等の開催
(3) 自然保護活動の推進
(4) 支部機関紙の発行
(5) 目的を同じくする他の団体との連絡および協力
(6) その他、目的を達するために必要な事業

（会員）

第4条　本支部の会員は、茨城県に在住、在勤、在学し支部に入会を希望する日本山岳会会員（以下会員という）、又は本支部規約の趣旨に賛同し、支部に入会を希望する会員とする。

（役員）

第5条　本支部には、次の役員を置く、支部長 1名、支部長代行 1名、事務局長 1名、総務委員、経理委員、広報委員、各 1 名、監事2名、自然保護委員3名、合計11名。

（役員の選出および任期）

第6条　本支部の役員は、総会において支部会員の中から選出する、役員の任期は 2 年とし、再任を妨げない。

（役員の任務）

第7条　役員の任務は次の通りとする。

(1) 支部長は、本支部の業務全般を管掌し本支部を代表する。
(2) 支部長代行は、支部長を補佐し、支部長不在の時は支部長を代行する。
(3) 事務局長、総務、経理、広報、担当委員は、支部の運営について支部長と協議し業務を執行する。
(4) 自然保護委員は、本部と連携し、自然保護活動に率先垂範し、意見具申と具体策について支部長ならびに支部と協議し業務を執行する。
(5) 監事は、役員の業務及び支部の会計を監査し毎年総会に報告する他、各種会議に出席し、意見を述べる事ができる。

（会議）

第8条　本支部には総会および委員会を置き、総会を以って本支部の最高議決機関とする。

(1) 通常総会は、毎年1回支部長が招集する。但し、支部長、支部長代行、監事または委員が必要と認めたときは、支部長は臨時総会を招集することができる。総会の議長は支部長とする。
(2) 次の事項は総会の承認を受けなければならない。
　① 事業計画および収支予算に関する事項
　② 事業報告および収支決算に関する事項
　③ 支部規約の設定、改廃
　④ その他委員会で必要と認めた事項
　⑤ 委員会は、原則として毎月1回支部長が召集する

（会計）

第9条　本支部の事業遂行に要する費用は、支部会費、寄付金その他の収入を以て支弁する。

（支部会費および入会金）

第10条　支部会員の入会金は、1,000 円とする、また年会費は 1,500 円とし毎年６月末日までに納めるものとする。支部会費を未納の会員には、会報その他の連絡を停止することがある。

（支部特別会員の会費および入会金）

第11条　支部会員のほかに、支部特別会員（支部友）の参加を認め、その入会金は 1,000 円、年会費 2,000 円とし毎年６月末日までに納めるものとする。
支部会費を未納の特別会員には、会報その他の連絡を停止することがある。
また、支部特別会員は茨城支部の活動に参加の範囲を限定されるものとする。ただし、支部長の判断により、本部行事への参加、情報、などは協議できる。

（会計年度）

第12条　本支部の会計年度は、毎年 4 月 1 日より翌年 3 月 31 日までとする。

（規約の変更）

第13条　本規約の変更は、総会において出席者の 3 分の 2 以上の議決を経なければ変更することができない。

付則　本規約は、2008 年６月 15 日より施行する。

日本山岳会茨城支部役員名簿

茨城支部事務局・つくば市梅園 2-21-21　＊浅野事務局長宅　℡&Fax029-851-0015

支部長	：	星埜 由尚	(13985)
支部長代行	：	奥井 清	(4999)
事務局長	：	浅野 勝己	(12875)
総務委員	：	高木 康雄	(10679)
経理委員	：	西川 元禧	(11916)
広報委員	：	川久保 忠通	(14221)
監事	：	冨田 郁夫	(8491)
監事	：	荒木 浩二	(11897)
自然保護委員	：	堀内 孝雄	(11526)
自然保護委員	：	和田 光弘	(12154)
自然保護委員	：	山口 定男	(9760)

日本山岳会茨城支部会員名簿

（アイウエオ順）

【インターネットでの閲覧版では、
この部分の掲載は割愛しています。】

【インターネットでの閲覧版では、
この部分の掲載は割愛しています。】

支部特別会員

【インターネットでの閲覧版では、
この部分の掲載は割愛しています。】

新入会員からのご挨拶

安藤　弘記

初めての海外登山

1967 年 5 月（昭和 42 年）静岡大学コロンビア・アンデス学術調査隊は日本を出発した。この調査隊は化石、羊歯、蝶、蛾を採集する学術隊とコロンビア共和国の独立山、ピコ・クリストーバル・コロン山（5,800m）の登山を目的とする登山隊で構成されていた。

又聞きによると、パナマ地帯は 4000 万年毎に切れたり繋がったりしていて、動植物に周期性の変化が見られるのでこの証拠となるサンプルを採集することを目的としていた。

この山は航空写真では確認されているが、地上からの接近の記録はなく、山への接近方法などはわかっていない。コロンビア国にはスペイン人とインディオの混血メスティーソが大半であるが、山の上にはインディオが集落を作

ってすんでいる。登山装備と2ヶ月分の食料や燃料などをどうやって持ち上げるかなど難問山積であった。また言語はスペイン語ではあるが、インディオ間の言葉は又独特である。心配はあるが当たって砕けろだ、などと強がり気分で出かけてしまった。隊員はほとんど OB なので勤め先に無理を言って許してもらっていた。経費節減のため貨客船で 30 日かけて太平洋を横断しパナマ経由ボコタに到着し、地図上に表現される山に近い町にトラックで4トンの荷物を運び込んだ。

ピコ・クリストーバル・コロン山（5,800m）

この町に英語ができるインディオがいたのは奇跡的で本当に助かった。このガイドのおかげで馬40頭を集め荷物を4,500mまで持ち上げることが出来た。ここにベースを作りやっと登山気分がでてきた。ピコ・クリストーバル・コロン山は5つほどの山の集まりでどれが最高峰なのか定かではなかった。手分けして全ての山を登ることにした。

これがほぼ 1 ヶ月ほどかかり、無事平地に帰ることが出来た。平地の移動には乗用車を使っていたが、滞在中事故3件を記録した。最も悲惨なのは帰りの船が着くカルタヘナへあと 1 日と言う所で調達した運送業者の運転ミスで車が反転し荷台に乗っていた隊員が全員大怪我をしてしまったことだ。脚の骨折、内臓の腫れ、頭部裂傷、肘の骨ひびなど全員入院してしまった。船はあさって着き翌日出航なので入院などしている暇はない。この船を逃すとあと 2 ヵ月後になるという。とりあえず歩ける隊員で松葉杖を買いにでかけたが、こんなもの売っている所をスペイン語で聞いても埒が明かないので松葉杖をしている人を探し、案内してもらって手に入れた。船には船医がいて 30 日の診療でかなり回復し横浜から無事自宅に帰ることができた。私の初出勤では以前の席は無くなっており、新しい部署が待っていた。

こんな訳で始めての海外登山は登山より様々なトラブル処置のほうが強く印象に残ることになりました。写真の右の山が本命の山でした。

田中 大和

新入会にあたり

日本山岳会入会を 7 月の理事会でお認めいただき、併せて茨城支部にも入れて頂くことなりました田中大和（たなかやまと）です。生まれは大阪なのですが、水戸市で育ち、その後もほぼ、つくば市に在住するかなり正しい茨城県民です（一年だけ春日部に住んでおりました）。

星埜支部長からのお声がけがあり、今西錦司先生（日本山岳会第 12 代会長）が保有されていた地図について、ご家族から国土地理院にご寄贈いただく手続を担当させていただき（四手井靖彦さんが、「山」2009（平成 21）年 8 月号（No.771）にご紹介されています）、その作業を通じて、日本山岳会のこれまでの歴史も触れさせていただいたことなどが、入会のきっかけです。

山につきましては、学生の頃に少々かじりつつあったのですが、社会人になってすぐの頃に、同僚と八ヶ岳の本沢温泉に泊まり、天狗岳に登ったのが最後となっています。その後、私の体は二倍くらいに成長し、現在では、電車の発車が迫った駅の階段を、わしわし上がっては、大変な息切れになるといった、実にお恥ずかしい限りの状態となってしまっております。

日本山岳会では、茨城支部と併せて、山岳地理クラブにも所属させていただきました。こ

れまでの諸先輩方の歴史的な経緯について測量や地図の観点から学ばせていただきつつ、徐々に山に復帰させていただきたいと考えております。お手やわらかによろしくお願いいたします。

諏訪 肇

（韓国）雪岳山・北漢山

茨城支部創立二周年おめでとうございます。私は2年間札幌へ勤務し、3月31日付退職し古河市に帰宅しました。JACには1999年に入会し、同期会つくも会に在籍しています。

私の入会のご挨拶として、昨年韓国鉄道公社OB山岳会・鉄友会とJACつくも会と合同で行いました親善登山を御紹介します。

昨年9月、鉄友会会員21名と私たち会員7名で親善登山を行いました。私は9月19日に千歳空港から仁川空港を経てソウル泊。翌20日、金浦空港で仲間を迎え、シラクサン・ユースホステルに泊まった。

9月21日

予定より30分早い4時過ぎに起床、周りを起こさぬように布団を抜け出し表に出てみた。昨日はソウルから草束（ソクチョ）までの移動中はずーと雨、ホテルのある雪岳山麓も厚い雪に覆われていたため、天候が気がかりだったのだ。未明の空夜を見上げると満天の星、台風で中止になった2年前とはうって変わって好天に恵まれた山行になりそうだ。それにしても見事な星空である。日本では八ヶ岳あたりまで行かないと見られないくらいの沢山の星が見える。

昨晩、歓迎会を開いていただいたホテル近くの食堂で朝食を済ませバスに乗り込む。東海（日本海）沿いの国道7号線から雪岳山国立公園の中を通る国道44号線へ。ホテルを出発してから45分くらいで五色（オクセ）温泉へ。登山道脇には遭難対策用に現在位置を示すナンバーと緊急連絡先が記された標識が一定の距離ごとに立てられている。植生が日本と似ているせいか、目に映る風景が丹沢や北アルプスの合戦尾根に似ていて面白い。登り始めは青々としていた木々の葉も標高1700mの頂上近くでは紅葉が始まっており、日本の秋山と比べても負けず劣らず美しい。頂上まであと500mを切ると急に視界が開け、間もなく山頂といった雰囲気が漂う。

登山口から約5時間で大きなゴロゴロとしている大青峯に到着する。2004年の時は登山統制期間で中止と4年越しの挑戦となったが、鉄友会の皆さんのサポートのお陰で念願の頂上に立つことができた。山頂は想像していたより広く、丹沢の塔ノ岳くらいはあろうか。視界は良く、ガスがかかっていなければ北朝鮮の金剛山が望めると思われる。向かいの中青峰頂上にある真っ白なレーダードームが軍事用なのか気象観測用なのか気になるところである。

雪岳山山頂

記念撮影後、大青峰と中青峰（チュンチャボン）との間の鞍部に建つ中青峰待避所で昼食をとる事とした。お弁当は鉄友会が手配してくれたキンパ（韓国風海苔巻き）だ。細めの太巻きが2本。輪切りになったトレーにパックされておりボリュームは満点。ゴマ油風味の海苔が美味しい。20分ほどで昼食タイムを済ませ、千仏洞渓谷方面へと向かう。下りの風景は登りとガラリと変わり、岩肌むきだしの荒々しい渓谷が続く。天に向かって突き上げる無数の岩峰を千体の仏に見立てたことから千仏洞の名前がついたそうだ。下りも登山道はしっかりと整備されており危険はない。美しい渓谷沿いの登山道を下ると5時間で飛仙台（ビソンデ）に到着。

ここは 2006 年に台風で登山中止になった際、「せっかくだから」と振興寺側の登山口から案内して頂いた時の折り返し地点である。ここから振興寺までは座敷を備えた売店（アルコールあり）や公衆トイレが点在し、登山道というよりは散策道になっている。1 時間ほどで観光組の待つバスに到着する。

我々より一足先に到着していた女性の李さんから可愛い記念品のお土産を戴く。鉄友山岳会員でなくゲストで参加されたことであるが、細かい心遣いに感謝感激する。

千仏洞の岩峰

9 月 22 日

本日はソウル市内までの移動と北漢山（プカンサン）登山だ。約 300km 離れた二つの山を個人で効率的に登るのは難しく、チャーターバスは大変有り難い。途中、トライブインでの休憩、食堂での昼食をはさみ 13 時前に道さん寺（ドソンサ）登山口に到着。

北漢山はソウル市内にある人気スポットだけあって麓の牛耳（ウイドン）には複数の系統を有する路線バスのターミナルがあり、登山用品店、土産物店、食堂等が多く立ち並んでいる。登山口から 1 ピッチで峠まで登ると巨大な仁寿峰（インスボン）の岸壁が姿を現す。目指す白雲台（ペクンデ）山頂は仁寿峰の陰に隠れてまだ見えない。白雲台直下に位置する白雲山荘のテラスで休憩をとり、山頂へのアタックだ。

ここから先は道が小さくなり、朝鮮時代に外敵の侵入を防ぐために建てられたという城郭から上は岩山の登りである。登山ルートは両側に張られた頑丈なワイヤーをしっかり掴み慎重に登る。間もなく白雲台に到着する。向かいにはほぼ同じ高さの仁寿峰が肩を並べる。標高は 1000m にも満たないが非常に高度感がある。頂上は 10 人も立てば満員となる狭さなので、手短に写真を撮り、後ろから登ってくる人に場所を譲る。頂上下のテラスで記念写真、もと来た道を下る。

帰りは道さん寺の駐車場にバスが入って来られないとのことなので、頂上直下で記念撮影からルートを変更し、尾根伝いに牛耳近くまで下りた。ここの食堂では我々の為歓迎会の会場がセッティングされており、日本語、韓国語が入り混じる賑やかな中、美味しい韓国の料理、お酒を頂きながら 2 日間にわたる交流登山の成功を祝った。

今回の交流登山に鉄友会からゲストを含め 20 名を越える会員の方々が参加、又、チャーターバス、ホテルの手配と食事等、何不自由なく登山を楽しむ事が出来た。今年は日本アルプスをご案内するとの約束をした。カムサハムニダ。

北漢山山頂

交流登山成功パーティー

3 支部（栃木・茨城・千葉）合同懇親山行

（第 2 回）　栃木・茨城・千葉の 3 支部合同懇親会と山行の経過報告

浅野　勝己

日時：2009 年 2 月 7 日（土）～8 日（日）
懇親会場所：（千葉県南房総市内の民宿）
“冶郎吉”
山行場所：富山登山および鋸山登山の各班への参加。

1.　懇親会の概要：

7 日の午後 4 時より挨拶および活動報告が行われた。参加者は、千葉支部 28 人、栃木支部 11 人、茨城支部 8 人および JAC 副会長の神崎氏の総計 48 人であった。

先ず千葉支部の篠崎仁支部長の開会と歓迎の挨拶がなされ、美味しい海の幸の魚介類を大いに味合って戴きたいとのウエルカム・メッセージであった。次いで栃木支部の日下田実支部長、さらに茨城支部の星埜由尚支部長より挨拶がなされ、また各支部の事務局長より近況の活動報告が行われた。

終りに JAC 副会長の神崎忠男氏から JAC の現状と課題について報告があり、全国 28 支部の総会員 5,500 人の真のクラブ・ライフを充実させる為の組織として意識改革の必要性を指摘された。その後、午後 6 時 30 分より待望の魚の料理を戴きながら懇親を深めた。

2.　山行の概要：

8 日の朝食後の 8 時 30 分に 2 班に分かれて山行へ向けて出発した。我が支部からの 8 人は以下の班に合流し、登山をエンジョイした。

- 富山登山班：冨田郁夫、山本幸生、酒井国光、西川元禧、高木康雄
- 鋸山登山班：星埜由尚、斉藤貞雄、浅野勝己

富山頂上

鋸山頂上

野外研修会

（第 3 回）自然観察会「御前山を訪ね植物観察」

西川　元禧

日本山岳会茨城支部の野外研修会として新緑の時期に茨城県北部の常陸太田市と城里町

の境にある御前山（標高 186m）の自然観察を行いました。梅雨期にも拘わらず当日は晴天に恵まれ、爽やかな森林浴を兼ねたハイキングを楽しみました。（行程　約 4 時間半）

期日：平成 21 年 6 月 27 日（土）日帰り

参加者：堀内、山本、斎藤夫妻、西川夫妻
（計 6 名）

御前山登山口の道の駅「かつら」奥の駐車場に 10 時集合の予定であったが、参加者全員が 9 時半までに到着した為、9:35 登山口にある「御前山案内図」を見ながら森林インストラクターである堀内氏から今日のコースや御前山の植物概要について説明を受け、9：45「関東ふれあいの道」起点である登山口をスタート。那珂川支流皇都川の渓流に沿った道を歩く。明治政府の国策で植えられたケヤキの巨木の美林や、幕府の庇護を受け樹木伐採が禁じられた御留山なので自然が豊かである。12：25 山頂・鐘撞堂跡に到着。東屋で景色を眺めながら昼食。13：20 山頂出発。下山は稜線伝いに歩いて 14：18 東登山口到着。道の駅「かつら」で買物等して解散。

植　物：

御前山は、暖温帯常緑広葉樹林域から冷温帯落葉広葉樹林域への移行帯にあるため、両方が混在する動植物の宝庫として有名で、那珂川の清流に面した自然林の美しさは「京都の嵐山」に似て「関東の嵐山」と呼ばれ、山紫水明の地として知られる。

歩き始めてすぐナツツバキ（沙羅の木）が何本もあって満開の白い花が目を楽しませてくれる。いろいろな野草の花が咲き、謡曲に出てくる「テイカカズラ」も白い花が咲き香りを漂わせている。シダ類もウラジロ、ジュウモンジシダ、リョウメンシダ、ベニシダ、ヤブソテツ、クサソテツ、マメヅタ、その他多種類で、マメヅタは見た目にはシダ類とは思えないが胞子葉があって納得。ヤマアジサイ等の落葉広葉樹、アラカシ、シラカシ等の常緑広葉樹、針葉樹と、その都度、堀内氏から丁寧な説明があり、沢山の植物名を憶える事が出来たはずなのですが、最近は記憶力が薄れてきて 1 回では頭に残りにくく、堀内氏には今後も機会ある毎に自然観察会を続けて戴きたいと思います。

（第 4 回）南会津の紅葉とキノコ狩り体験教室

高木　康雄

期日：10 月 25 日（日）～26（月）（1 泊 2 日）

参加者：

（会員）星埜由尚・星埜祥子・柳明雄・諏訪肇・高木康雄・（講師）杉山敬

（一般参加者）杉山一江・杉山省三・野毛昭美

［計 9 名］

初日、あいにくの曇天であったが、荒川沖駅前から 2 台の車でスタートし、途中の下館駅前で諏訪会員が乗り参加者全員が揃い、湯の香しおばら道の駅で休憩後、紅葉の彩りが目を楽しませる山道を走る。塩原温泉郷を過ぎると一段と紅葉の色鮮やかになり、見ごろの紅葉ドライブとなる。山王トンネルを過ぎると山間がせまってきて奥会津の風を感じる。まもなく、南会津町大桃にある民宿『りす』に到着。

宿のご主人の軽トラックに先導され高畑山（1293m）の麓にある高畑スキー場内の自然林の斜面をキノコを求めてヤブ漕ぎを始める。初めての体験でなかなか見つけることが出来ないが、ブナの原生林は体に優しく気持ちが良い。やっと見つけた時の喜びはひとしおであった。

小休止後、窓明けの湯レストランで昼食をとり、その後、家向山（1526m）の裾にある巽沢山の急斜面で 2 度目のキノコ取りを開始、16 時ごろ終了。そこそこの収穫に満足し、小豆窓明けの湯の温泉に入り、宿のキノコ料理と山女の塩焼きの夕食に会津の銘酒『男山』の美酒に酔いしれた。

翌日は土砂降りの雨で、尾瀬の裏林道ハイキングを取りやめ、大桃の舞台・屏風岩を見学し、

その後、星埜支部長提案の会津の『瑠璃光山蜜蔵院勝常寺』にある国宝の木造薬師如来像･月光、日光菩薩像の薬師３尊その他、薬師堂を見学し、室町時代初期の作品に触れ、歴史の奥深さを楽しむことが出来た。途中、昼食は喜多方市の名物、蔵ラーメンを食べ、茨城街道（白河街道）の古い町並みの雨に佇む景観を見ることが出来、思わぬ収穫の２日間であった。

支部山行

（第８回）真壁富士 探索山行

高木 康雄

期日：2009 年２月 18 日(水)　晴れ

参加者：奥井 清・酒井 国光・山本 幸生・
高木 康雄　（計４名）

コースタイム：
土浦駅 7:17－8:35 真壁駅 8:40－9:05 遍昭院 9:15－9:20 五所駒が滝神社 9:50－10:20 広場 10:30－11:30尾根上－12:10山頂12:30－13:30神社

晴天に恵まれ、午前７時土浦駅前５番線バス乗り場に４人の仲間が集合し、7 時 17 分発真壁行きバスに乗る。平日朝夕１便のみのバス便には途中で学生や小学生の子供たちの乗り降りが多く、にぎやかである。

走るバスの車窓からは宝篋山のテレビ塔や筑波山の双耳峰の山並みがはっきり見渡せた。1 時間 30 分走り、真壁町の中心部バス停終点に着いた。脇には以前筑波線の電車が廃線になる前の駅ホームが残されており、きれいなトイレも完備した公園風に整備されている。

街中を歩いて古城地区交差点信号をわたり石岡方面への道を進む。五所駒が滝神社の手前に遍照院があり、史跡（県指定文化財）の真壁氏累代の墓地にお参りし、歴史の刻まれた墓碑群を見学。隣の五所駒が滝神社に参拝、桜井宮司にご挨拶し山の様子をお聞きする。その後、境内にある登山口から歩き出す。登山口には真新しい『お富士権現山』の立て看板があり、緩やかな落ち葉の山道をゆっくり登って行く。まもなく展望台と言われている広場らしき場所に着き、小休止。小さな石祠があり、展望がやや開け下の町並みが見渡せた。

その先からは笹薮や雑木林の中の踏み後になった尾根道になり、急斜面の切り立った細い道を慎重に通過し、岩場らしき尾根上に出てからは藪がひどい。かき分けて進むとやや開けた場所に大きめの石の祠があり、山頂（396.6㍍）である。そこから先に 30 メートルほど藪の中を進むと４等三角点に出た。回りは藪で覆われていて、先に進むのには難しく探索は打ち切り、山頂の石祠に戻り、昼食後、元来た道を神社に下山した。

最高齢者の奥井支部長代行も元気に目標を達成し、全員に無事に下山できた。その後はタイミング良く真壁ひな祭り期間の為（2 月 14 日－3 月 3 日）毎日ひな祭り号バスが運行されており、つくばセンターつくば駅にて解散した。

真壁富士山頂

（第 9 回）奥多摩 笹尾根

西川 元禧

茨城支部の 3 月山行として、東京・山梨・神奈川県境を形成する尾根である三頭山から和田峠まで続く笹尾根のうち浅間峠～生藤山の部分を歩きました。（行程　約 5 時間 15 分）

期日：平成 21 年 3 月 28 日（土）日帰り

参加者：斎藤・高木・西川夫婦　（計 4 名）

行　程：約束の常磐線電車に各駅から参加メンバーが乗り込み、

新宿駅 7:44（ホリデー快速）⇒ 8:48 武蔵五日市駅、五日市駅前（9 時発バス）⇒ 9:38 上川乗バス停 → 9:45 南秋川橋 → 11:00 浅間峠 11:20 → 12:00 熊倉山（866m）（昼食後）12:35 → 13:05 三国山（960m） → 13:25 生藤山（990m） → 14:15 佐野川峠 → 14:55 石楯尾神社バス停 15:27（バス）⇒（中央線）上野原駅⇒新宿駅

朝、武蔵五日市駅に到着したら、登山口に向かうバス停には日本山岳会三水会の浅間尾根山行のメンバーが並んでいた。お馴染みの顔ぶれで、偶然にも同じ日に、同じバスで、降りるバス停も同じで、登山口が右と左に分かれるだけ。バス停から北側の浅間尾根へ向かう彼らに別れの挨拶をして、我々は南側の笹尾根へ向かう。

我々の歩くルートは「関東ふれあいの道」になっていて登山道も明確で、尾根は幾つかの山々をつなぐ稜線漫歩だ。

熊倉山の手前には馬頭観世音像があり、そこから 5 分程で熊倉山頂上。更に行った三国山は文字どおり武蔵・甲斐・相模三国の境で、生藤山頂上を過ぎた所には山桜の古木が何本もあって、半月後の開花時期は見事な眺めだろう。天候にも恵まれ、各山頂からは奥多摩や道志山塊・中央線沿線の山々、大菩薩連嶺の山々が眺められた。

のんびり歩いたが、麓の石楯尾神社には予定していたガイドブックのコースタイムより少し早めに下山することが出来た。

（第 10 回）西金砂山･三鈷室山･妙見山

高木 康雄

期日：2009 年 4 月 30 日（水）～5 月 1 日　晴れ

参加者：星埜支部長・堀内孝雄・冨田郁夫・山本幸生・西川元禧・斎藤貞雄・星埜祥子・西川道子・高木康雄　（計 9 名）

コースタイム：

4/30(水) 土浦警察署 9:05＝10:45 一の鳥居―13:00 神社前(昼食)13:30―14:25 4 等三角点―15:45 一の鳥居駐車場

5/1(木) 宝来館 8:00＝8:40 登山口―9:15 三鈷室山―12:30 プラトー里美―13:45 瘠松山―14:45 妙見山―15:30 登山口

土浦警察署前に午前 9 時集合し、3 台の車でスタートした。ゴールデンウイーク中にもかかわらず車は順調に流れて、10 時 45 分には常陸太田市にある西金砂神社一の鳥居に到着した。堀内会員が既に待機され、早速、表参道を歩き出す。第 2 回目の森林植物観察会が始まった。

堀内会員の説明

森林インストラクターである堀内会員の懇切丁寧な説明により、西金砂山の暖温帯林域と冷温帯林域の境界に位置し、多様で珍しい植物が生育しているとの説明を受けて、参加者は種類が多いのに名前がすぐ出てきて驚きをもって聞きいっていた。

その後、神社前にある県指定天然記念物のイチョウ・サワラの巨木脇で昼食をゆっくり摂り、

満開の八重桜を見ながら桜の分類や品種の見分け方などの説明も受けた。急な階段状をのぼり、断崖絶壁上に立つ奥社に参拝し、展望台からの八溝山・男体山・那須連山を遠望して 4 等 3 角点(410m)を確認し、裏参道から下山した。その日は、棚谷にある宝来館に宿泊し、温泉と山菜のてんぷらと御酒で会員の親睦を深めた。

翌日は 8 時に宿をスタートし、里川宿にある三鈷室山の登山口で石碑と説明文を確認、テレビ塔のある山頂で展望を楽しみ、近くの妙見山(880m)を探索したが、登山口がはっきりせず次回に持ち越しとし、県内一といわれている七反枝垂桜を見学したが、既に葉桜であった。その後、プラトー里美で美味しい牛乳と昼食をとり、近くの瘠松山(816m)の 2 等三角点を探索し、最後のやぶ山である妙見山(652m)を踏み跡を探しながらの山頂到達で 3 等三角点を確認でき、14 時 45 分に無事今回の山行を終了し、帰途に着いた。女性 2 名の参加も得たのんびりの楽しい山行であった。

三鈷室山山頂

妙見山(652m)の 3 等三角点

（第 11 回）富士登山

高木　康雄

期日：平成 21 年 8 月 14 日(金)～15 日(土)

参加者：

（会員）和田 光弘･冨田 郁夫･荒木 浩二･
斉藤　貞雄･高木 康雄・前 美智子

（支部外参加者）伊藤 正之･山口 光子･
天明 祐美子　　（計 9 名）

茨城支部 8 月度山行として、富士登山と「よみがえれ富士山測候所」の見学会並びに高山病座の受講を兼ねて登頂した。8 月 14 日(金)から 1 泊 2 日で計画、富士山測候所で 7 月から 2 回目の研究中の浅野事務局長（NPO 富士山測候所を活用する会理事長）を訪問し、講座を聴講し、あわせて測候所内を初めて見学し全員大変満足した。快晴にも恵まれ、すばらしい御来光にも出会えた。

第 1 日目（8 月 14 日：金）

新宿駅西口高速バスターミナルに 8 時半集合、8 時 45 分発高速バスで富士吉田ロスバルライン 5 合目（2305 ㍍）パーキングを目指した。中央道のお盆の混雑もなく予定時間 11 時 15 分には着き、近くで昼食後、11 時 40 分にはゆっくり歩き始めた。

六合目安全指導センター（2390 ㍍）で吉田ルートの地図をもらい大勢の登山者に混じって登っていく。子供づれの親子、若い男女のカップルやグループ、ツアー客の団体外国人など、実にさまざまな人たちが山頂を目指しているのを見ると富士山の人気の高さと日本一の山である実感がわく。(本年 7 月 1 日～8 月 17 日現在、吉田口登山者約 17 万 5 千人。尚、その他 3 ルートあり)

七合目救護所（開所期間：7/20－8/23）を過ぎ、山小屋を次々と見ながら急な岩場を登り八合目救護所（開所期間：7/17－8/24）を通過、まもなく本日の宿である蓬莱館（3120 ㍍）に 15 時ごろ着き、早目の夕食を済ませ団体客の到着前に眠りに着いた。

第２日目（8 月 15 日：土）

4 時起床。各人朝食後 4 時 45 分ぐらいから小屋前で御来光を眺め、5 時に出発する。

御来光

富士山頂（剣が峰）

白雲荘、元祖室、富士山ホテル（3360 ﾒｰﾄﾙ）、本八合トモエ館、御来光館前には人々の行列があり、そこから上は最後の急な岩場の連続で 1 列状態が続き、やっと登りついた山頂の久須志神社(3720 ﾒｰﾄﾙ)前は大混雑であった。NHK やフジ TV が取材をしていた。30 分ほど小休止後、大日岳経由のお鉢めぐりして浅間大社奥宮へ 9 時着、御参り後、剣が峰（3776 ﾒｰﾄﾙ）の最高点で 2 等 3 角点を確認し、測候所前で単独登山の和田会員と握手、測候所滞在の浅野事務局長を交え記念写真を撮り、「日本一高い場所での高山病の話」を聞いた後、測候所内見学をした。大変判りやすい講義に時間のたつのも忘れ満足のいく内容であった。遠く北海道からの参加者もいて、大変盛況であった。その後お鉢を一周して吉田口に下山した。

富士山測候所での見学会と懇談会記念

特別山行

（茨城県自閉症協会協力登山）磐梯山

諏訪肇

日程：2009 年 8 月 29 日(土)～30 日(日)
参加者：総勢 28 名（支部関係者 5 名）

標記についての経緯について、04 年前理事贄田統亜氏より私の所属する「つくも会」に協力の要請がありました。04 年 8 月富士山は風雨の中で 8 合目宿泊、翌日 5 時、3 名の自閉症者と山頂登山、05 年 7 月日光の社山登山へ御案内しました。

今年 4 月下旬に自閉症協会の事務局長中澤氏からの電話があり、今回夏期療育年長キャンプを磐梯山登山を行うにあたり、協力してほしい旨の要請を受けました。

私は北海道支部から 4 月茨城支部へ入会したばかりでありましたが、茨城支部で役員会の協力を求めましたところ、支部長以下役員の皆

様が意義ある活動であるから協力しましょうとの回答を得ました。

それから自閉症者の行動・過去の登山状況の説明を行う中で、故長通氏から詳細な説明を受け、大変な心遣いに感銘しました。氏が参加していればと思いますと無念でなりませんが感謝しております。

今回は 23 名（親も含めて）に対し、支部長以下 4 名参加する事となりました。

磐梯山山頂
（2009 年 8 月 30 日、12 時 30 分）

8 月 29 日、土浦駅に 8 時前に集合、貸切バスで途中参加者を乗せて猪苗代地ビール館に向かいました。ビールを飲むのが目的でなく、昼食のためなので念のため。しかし、大人には地ビールが出ました。ドイツビールとありましたが、私には美酒ではなかったので 1 杯で止めました。

14 時、五色沼散策を 2 班に分け、地元ネーチャーガイドの説明で歩きました。私たち 5 名は参加した子供達の行動を観察し、後で担当を決める参考にしました。

湖の周辺はそろそろ色づき、ススキが美しい。磐梯山は明治21年7月15日の大爆発によって、いわゆる「流山」と称する大小の丘陵の起伏と、無数の湖沼が出現しました。今日五色沼と呼ばれているあたりは、一見して往時の惨々たる状況を偲ぶのに充分であるとの説明がありました。

17 時、裏磐梯五色沼の宿「ハイジ」に宿泊しました。又、食前に協会役員と班編制について話し合いました。今回は家族参加の班ではなく、親と子を分けて編成した事が良かったと思います。私は S 女性の担当。段差をとても恐がり、行動が慎重な方です。母親と一緒の参加でしたが、別の母親と参加する事にし、最後の班で登山する事としました。夕食時に地酒を注文し、明日の登山について意見を交換しました。

当日は曇でしたが、雨の心配はありませんでした。8 時、バスで出発。8 時半、八方台から登山開始。S 女は登り 10 分で「お母さん」と言って泣き出しました。N さんが「お母さんは先で待っているからガンバロウ」といたわり、岩場では両手を引っ張り上げました。この状態では中ノ湯までかと思いながら、励ましの声をかけ、泣くのをなだめました。3 度目の協力登山に参加した私がここでめげては皆に心配をかけてしまうと、私も泣きたい思いで慎重に脇に寄り添い 11 時 30 分、弘法清水に到着しました。

他の班には山頂を往復するように連絡し、私たちはここまでとして、山頂組を待つ事としました。S 女は自分の足で登った事に満足し、表情が豊かになりました。また天下の冷水である弘法清水（5℃）に癒されました。

12 時 30 分、山頂組が全員揃って下山し、皆で昼食を摂りました。S 女は母親と楽しそうに語り合っていました。下山も最後になりましたが 15 時 30 分、八方台登山口で皆の拍手に迎えられました。

協力登山者一同
（右から浅野、星埜、諏訪、斎藤、及び石原（故長通氏の代理）の 5 氏）

療育キャンプは自閉症とその家族を中心に、指導者、ボランティアとの集団宿泊生活を通して自閉症者の自覚や積極性を促し、彼等の社会適応力を高める事を目的とするものです。私たち５名も様々な事を学ぶ事が出来ました。

個人山行

景鶴山(2,004m)

山本幸生

期日：平成 21 年 5 月 13 日（水）～15 日（金）

参加者：西川元禧、高木康雄、山本幸生（計３名）

コースタイム：

5 月 13 日（水）上野 7:20(特急水上 1 号)＝9:26 沼田 9:35＝11:31 鳩待峠 12:05―13:15 山の鼻 13:25―16:00 龍宮小屋（泊）

5 月 14 日（木）出発 4:40―8:10 与作岳 8:25―9:10 山頂直下―10:00 与作岳 10:15－13:40 木道 13:50―15:30 山の鼻小屋（泊）

5 月 15 日（金） 出発 6:50―8:00 鳩待峠＝8:40 鎌田＝9:53 沼田＝10:58 高崎＝12:44 上野

景鶴山は尾瀬ヶ原の北西にあり、群馬県と新潟県の県境に位置する山で頂上部にニュー岩と呼ばれる岩峰があり、原からも良く見える山である。以前は登山道があり、ガイドなどにも紹介されていたようだが、今は廃道となり登ることはできない。

日本山岳会選定の「日本 300 名山」に選ばれていて、藪が雪に埋もれる積雪期（春期）に登られている。

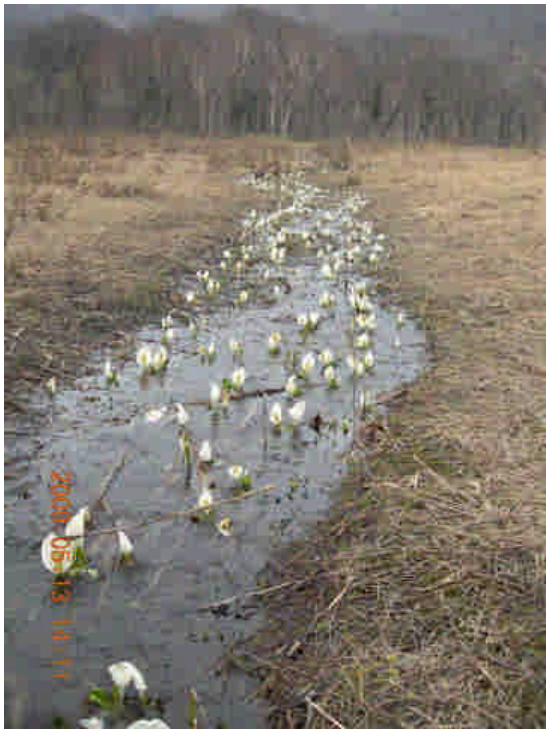
5 月 13 日（水） 曇り後晴れ

上野発の特急はウイークデーでもありガラ空きだった。上越線の下りはいつもながら車窓の左右に奥多摩、奥武蔵、西上州、赤城山、妙義山、榛名山、子持山など山々が見えて懐かしい。沼田からのバスの登山者は我々だけで、今日始めてバスで尾瀬に入る客だそうだ。

バスの車窓から谷川連峰、武尊山が良く見える。蒲田でバスが止まっているとき、乗り合わせたお年寄りが「バスの回数券を買ったほうが得だよ」と教えてくれたので事務所へ買いに行った。(3,000 円で 4,350 円分乗れる、因みに沼田から鳩待峠バス連絡所までは片道 2,100 円)

山間部に入ると八重咲きの桜が綺麗だ。鳩待峠行きバス連絡所で鳩待峠行きのバスに乗り換えて鳩待峠に行く。峠は気温 5 度と寒い。マイカーが 11 台止まっていた。食事をしてから歩き出す。

山の鼻までは木道と雪上を交互に歩く。途中、水芭蕉の咲いているところがあった。原の木道は日当たりが良いので木道の上に雪は全くなかった。時間があるので景鶴山の取付点を確認するために、牛首分岐から東電小屋の方へ歩く。水芭蕉が所々に咲いていて綺麗だ。ヨシッ堀田代の東電小屋が見える辺りから左側の山裾に入って赤布を見つけ取付点を確認した。



尾瀬ヶ原の水芭蕉

晴れてきて原の周囲の山々が良く見えた。燧ヶ岳の南西面は雪が少ない、至仏山の北東面は雪が多かった。我々が明日登る景鶴山も良く見え、明日の好天が約束された。龍宮小屋には16:00 に着いた。今日の宿泊者は我々3 人のほか写真を撮りにきた 2 人の合わせて 5 人である。

高木さんは足の裏が痛いと言うので登山は断念し、明日は我々二人と別行動をとり帰ることになった。

尾瀬ヶ原から景鶴山の遠望

5 月 14 日（木）　高曇り後晴れ　一時雪

朝食のおにぎりを食べて 4:40 に出発する。取付点からは赤布を頼りに藪を登る。赤布の間隔が開いているところは持参した赤テープをつける。与作岳と笹山との鞍部に着く。シラビソ、ブナなどの大木がある雪原である。ここは群馬県と新潟県の県境で、これから景鶴山まで県境稜線を行くことになる。3 つほどピークを越してから雪がクラストしているのでアイゼンをつける。与作岳に着くころから太陽が出てくるが風は冷たい。広い雪原になっている与作岳に着く。360 度の展望だ。燧ヶ岳が近い、至仏山、武尊山、会津駒ケ岳方面、北に越後三山方面、南に日光白根山方面、平ヶ岳は真っ白だ。

一度下り急な雪壁を登って山頂の岩に近づくと岩の下の雪が融けて雪がナイフリッジ状になっている。これから先は危険を感じたので、ここで引き返すことにした。残念ではあるが止むを得ない。ここまで来たのだから良としよう。昨日、山小屋で受付時に 10 日に登った人が山頂付近は藪が出ていて登れなかったといっていたのを思い出す。来る時期が遅かったと思う。

下りは赤布を見つけながら快適に下る。途中雪が降り出した。鞍部から最後の藪を下る場所がなかなか見つからない。赤テープをつけてきたが、大事なところに着けてなかったようだ。下に原が見えるところだったので、西川さんと相談して強引に下ったが、運よく取付点から 50m ほど西側の原に出ることが出来た。誰とも会わず、雪山を満喫した一日だった。

後は木道を歩いて戻るだけだ。ゆっくり歩いて山の鼻についたら 15:30 なので予備日もあることだから、ここで泊まることにした。山の鼻小屋の今日の宿泊者は我々二人を含めて三人である。

5 月 15 日（金）

ゆっくり朝食をしてから 6:50 に小屋を出た。鳩待峠への道で今日の入山者と多数すれ違った。鳩待峠からは乗り物を乗り継いで帰路についた。

アンデス山脈・ブランカ山群と ワイワッシュ山群の山旅

西 川　元 禧

日　程：平成 20 年 6 月 16 日（月）～30 日（月）（15 日間）

山　域：ペルーアンデス・ブランカ山群とワイワッシュ山群のトレッキング

参加者：日本山岳会東海支部員等 4 名、西川（53 歳～69 歳の中高年：合計 5 名）現地ガイド、コック、ロバ使い 2 名、馬 2 頭、ロバ 10 頭。

概　要：

高さでは 8,000m 級のヒマラヤ山脈に対してアンデス山脈は 6,000m 級と劣るが、距離ではヒマラヤの東西 1,500km に対してアンデス山脈は コロンビア、エクアドル、ペルー、ボリビア、チリ、アリゼンチンの 6 ヶ国に跨る南北約 7,000km の世界最長の山脈。ペルーの国土面積

は日本の約3倍。民族構成は太平洋沿岸部にスペイン系を主とした白人が 15%とメスティーソ(白人と原住民との混血)が 45%、アンデス高地に住むインカ帝国末裔のケチュア族やアイマラ族、東部のアマゾン源流地帯に住む多くの部族を含めたインディオ(原住民)が 37%。ペルーの公用語は スペイン語、ケチュア語、アイマラ語。6 月は南半球のペルーでは真冬だが緯度が低いため低地は寒くない。しかし、今回歩いた 5,000m 前後の標高では夜、零下になる事もある。6月のペルーは乾季で天候には恵まれた。

行　程：

設立1周年記念･茨城支部総会の翌16日朝、我々5 人のメンバーは成田を出発し、合衆国アトランタで乗継いで、実質 24 時間以上かかっているのに時差の関係で、当日深夜 11 時頃ペルーの首都リマの空港に到着。日本人が経営するホテルに宿泊。17 日は、リマから2階建て路線バスに約8時間乗って、アンデス山麓・標高3,100m の都市ワラスに到着。バスターミナルには今回の山旅で世話になる現地ガイドのベト氏が出迎えてくれた。彼はスペイン語、ケチュア語、英語が話せる 30 歳台。彼の案内でワラスのホテルへ。18 日は早速ブランカ山群へ向かい、途中、麓のカラスという町の市場で食糧を調達。独特の丸っこい山高帽子に、色彩豊かなふんわり膨らんだ裾の長いスカート姿のケチュア族の女性達が坐って野菜、果物、穀物、パン、衣類等を売っている店舗や半露天の市場。そこからパロン湖(4,140m)へ向かう。湖からはワンドイ(6,395m)、ピスコ(5,752m)、チャクララフ(6,001m)、ピラミデ(5,885m)の白い峰々を間近に眺めながら湖の最奥部へ、更に川を渡渉し奥に進むと目の前に正三角形の真っ白いアンテソンラフ(6025m)が姿を現した。ソフトクリームの様に雪を沢山身にまとっている。19 日は未明 3 時に出発してポルタチュェロ峠(4,737m)へ向かい、峠ではモルゲンロートのワンドイ、ワスカラン(6,746m)、チョピカルキ(6,354m)を撮影、更にモロコチャ湖畔に進み、湖面に投影したチョピカルキを眺める。20 日はワラスから四輪駆動車でワイワッシュ山群へ向かうが、道路が凸凹でバウンドが激しく長い時間揺られて、やっと麓のパクジョン(3,350m)という村に到着。遊んでいる子供達や女性に声をかけ、バレーボールを一緒に楽しんだりしながら村内を散策。この日は村はずれに幕営。21 日は 10 時間歩いてヤウチャ峠(4,690m)直下まで登り幕営。22 日朝、峠からはイェルパハー(6,634m)、ヒリシャンカ(6,094m)、シウラ(6,344m)、エルトーロ(6,121m)、ロンドイ(5,879m)、ニナシャンカ(5,807m)、ツァクラ(5,548m)等、夜明けの高峰を至近距離で見飽きる事なくいつまでも眺めた。この日はハウアコチャ湖畔まで下り幕営。23 日はサンブンニャコチャ湖畔までハイキング。24 日はミナパタ峠(4,750m)直下まで急登を登り続けて幕営。25 日は近くの無名の低山(とは言っても5,000m を越える)までハイキング。26 日は峠から麓の村パルカへ下り、迎えの四輪駆動車でワラスのホテルに戻る。ホテルの自室からは夕暮れのブランカ山群のワスカラン、ワンドイ、チョピカルキ等、ピンクに染まった峰々を懐かしく眺めた。27日は16人乗り位の小型飛行機でリマへ飛び、午後は半日リマ市内を散策。28 日はリマ国立博物館や、有名な「黄金の仮面」など沢山の黄金の発掘品を展示した黄金博物館を見物した後、海辺のレストランで久し振りに海鮮料理の夕食に舌鼓。29 日はリマ空港からアトランタの空港へ。ここで山中の栄養不足を補給するため、アメリカ特有の分厚くデカいステーキを平らげた後､飛行機を乗り継ぎ 30 日に成田に到着。空港内のレストランで打上げ後、名古屋方面へ帰る彼等と分かれて今回の山旅を終えた。振り返って、ヒマラヤ、ヨーロッパアルプス等に比べ、トレッカー、登山者が極端に少ない事を感じた。今回、山中では誰にも会わず、ハウアコチャ湖畔でドイツ人パーティーの幕営に､26 日ワラスに戻って町のレストランで日本人観光客に出会ったのみ。日本の旅行会社でもブランカ山群のツアーは見受けられるが、ワイワッシュ山群のツアーは見た事が無い。静かな山、秘境を好む人にとっては穴場だと思われる。

アンデス山脈ワイワッシュ山群イェルパハー峰(6,634m)

チロル・ドロミテ　絶景の山旅

高木　康雄

ドイツ・ミュンヘン空港から専用車で夕方のハイウェイを走りオーストリア・エアヴァルドに向かう。市内には緑の木々が多く静かな町並みが印象的で、途中のベンツ本社の総ガラス張り窓に年代別の車が陳列され、7階建てのショーケースの役割をしているのに驚かされた。ハイウェイから下ると森や小さな村をいくつも通過していき、標高 1000 ㍍の高原リゾートであるエアーヴアルドに着く、日本の那須高原に良く似た雰囲気であった。

翌朝、ホテルで朝食後、歩いてゴンドラの山麓駅エアヴァルダーアルム（標高 1100 ㍍）に着き、ゴンドラに乗り山頂(1502 ㍍)へ。牧場らしき草原には牛が放牧され、のどかな景観に高山植物も咲き目を楽しませてくれる。晴れていれば眼前にドイツ最高峰のツークシェピッツ（2963 ㍍）が見渡せるが、曇り空で一部しか見えない。ゼーベン湖（1657 ㍍）までのハイキングで、途中、ゼーベンアルム小屋（1566 ㍍）で飲んだビールが大変うまかった。エアーヴアルドで 2 泊後。インスブルック（イン川の橋の意味）に向かう。

エーデルワイス

ドナウ川の支流イン川の谷あいの、チロル州の州都でもあるインスブルックは、過去に冬季

オリンピックが2回開催された歴史ある古都である。目の前にそびえているハーファレカー山（2334㍍）に、最新のケーブルカー（ノルトケッテバーン）に乗り山頂に向かう。

イタリアまで見渡せる大展望のゼーグルーベ駅（1906㍍）でパスタの昼食。乗り継ぎ山頂駅（2256㍍）へ。そこからは絶壁の縁を歩く道で日本の黒部下の廊下を思わせた。
3 時間ほどの道のりであるが足元はしっかりしていて、眺めは良いが緊張を強いられた。
プフイス小屋に着後、しばらくして雷雨でヒョウが降り、一面真白くなり、思わぬ雪景色が楽しめたが、高山での天候の急変は何処も一緒であると感じた。

翌朝、小屋で朝食後、クロイツ峠（2121㍍）を越える。1億年前の氷河の跡の岩石が散乱していると、ガイドの説明があり、近くには野生の鹿の姿が何匹も見られた。ルーマアルム（1243㍍）を経由し、フンガーブルグ駅（868㍍）までの道は約5時間で、植生豊かな高山植物が多く見られた。列車で移動、その夜はゼーフェルドに泊まり、翌5日目、ホテルからの湖畔沿いを歩き、チロル地方らしい美しい山と草原の中にある山小屋で、バーベキューランチを楽しむ。特に骨付きスペアリブと白ワインは絶品であった。

ゼーフェルトで2泊後、翌朝、ホテルで朝食。その後専用車でドロミテ核心部セッラ峠（2160㍍）へ、雄大な景観を見ながら、プラットコーフエル小屋へのハイキング。セッラ山群の雪を頂いたドロミテの最高峰・マルモラーダ（3342㍍）の雄姿が望め感動。

途中の岩陰に咲いたエーデルワイスをガイドが見つけて教えてくれ皆が写真を撮る。まもなくプラットコーフェル小屋(2300㍍)に着き、夕陽を眺めながらビールで乾杯した。タイル張りのトイレやレストラン風の食堂は日本の山小屋とは一味違うイメージだ。

山小屋で朝食後、サッソピアット(2958㍍)、サッソルンゴ（3181㍍）の岩山を周遊するハイキングコースはシウシ高原の雄大な景色も眺めながらの快適な山道で、アルペンアスター（エゾギク）などの高山植物も可憐に咲き誇っている。やがてセッラ峠に戻って専用車でコルチナ・ダンペッツオへ向かった。

コルチナ・ダンペッツオは、かつて猪谷千春が冬季オリンピックで活躍した高級リゾート高原で、古いホテルが多数立ち並んでおり、日本の軽井沢に雰囲気が似通っている。

翌朝8日目で、ホテル朝食後、ドロミテの核心部、オーロンツォ小屋（2320㍍）に着き、トレチーメ1周ハイキング、約4時間を楽しむ。Piccola/m（2857㍍）、Grande/m（2999㍍）、Ovest/m（2937㍍）の垂直の岩壁はドライチンネン(3人姉妹)で親しまれ、憧れでもあったが、岸壁に張り付いて登っている人を見るとものすごい迫力と威圧感、緊張感が感じられ伝わってきた。感動･･･ただ感動につきる。

ロッカテーリ小屋（2405㍍）で昼食にピザパイを食べた。うまかった・・・・。

その後、残りの山道を歩き元の小屋に戻って、路線バスでコルチナ・ダンペッツオに戻り自由行動で町の散策を楽しんだ。

翌朝9日目、ホテルでパン、ミルク、チーズ、オレンジジュース、卵、コーヒーの朝食。専用車でハイリンゲンブルートへ、氷河のほとりを自由散策で雄大な景観を楽しみ、オーストリア最高峰のグロスグロックナー（3798㍍）の雄姿が白く耀く姿に感動しカメラに収めた。その後、山岳道路から刻々と変化する山々を眺めながらザルツブルグに夕方着、世界遺産である旧市街地を見学した。

ザルツブブルグは、【塩の城】という歴史ある芸術の香り高い古都で、ザルツブルク音楽祭とモーツアルトの生誕地として知られている。

一泊後（10 日目)、朝早く市外のどこからでも見えるホーエンザルツブルク城に歩いて上り、中世の城砦建築を充分に見学し、ホテル発11時、専用車でミュンヘン空港に向かった。

6月26日から僅か10日間のヨーロッパアルプスの山旅であったが、カナデアンロッキーやネパール等の自然豊かで素朴な風土が残る地域と同じ雰囲気を味わうことが出来た。

ドライチンネン

サッソ・ルンゴの岩山

ケニヤ山・キリマンジャロ山の登山と
アンボセリ国立公園でのサファリツアー

川久保忠通

メンバー：川久保(L)、
K.S.(川久保のジョッギング仲間)、
K.T.(川久保の同じ山スキークラブ員)

期間：2009年9月14日～10月1日（18日間）

概略日程：

9/14～15：(日本)羽田～(ケニヤ)ナイロビ

9/16～18：ケニヤ山［9/16 ナイロビ==ナルモルゲート-メッツステーション(海抜 3000m) 9/17—マッキンダーズキャンプ(4200m) 9/18 —オーストリアン・ハット(4790m) — ケニヤ山(レナナ峰)頂上(4985m) —メッツステーション==ナイロビ］

9/20～26：キリマンジャロ山［9/20 ナイロビ==モシ 9/22 ==マラングゲート(1550m)-マンダラハット(2729m) 9/23 —ホロンボハット(3780m) 9/24 —キボハット(4703m) 9/25 —ギルマンズポイント(5685m) —ウフルピーク(5895m) —ホロンボハット 9/26 -マラングゲート==ナマンガ(タンザニアとケニヤ国境)］

9/27～28：アンボセリ国立公園［9/27 ナマンガ==キボ・サファリ・ロッジ 9/28 ==ナイロビ］

9/31～10/1：（ケニヤ)ナイロビ～(日本)羽田

2009年10月14日、私と同じように定年退職した2人のオジサンと一緒にアフリカに出発した。今度の旅は旅行社の公募ツアーではなく、自分達の手作りツアーであるので、予め旅行費を全額払い込んでいた旅行社がきちんと対応してくれるか一抹の不安はあったが、ナイロビ空港で大柄で温厚なケニヤ人（オケチさん）の出迎えを受けてひと安心した。車でホテルに連れて行ってもらい、今回のケニヤ山とキリマンジャロ山をガイドしてくれるがっしりとした30歳台のダニエルさんを紹介され、明日からの山行の事を打ち合わせた後、24時間の飛行機の旅で疲れていた為か、すぐ眠ってしまった。

翌15日の朝、車でナイロビを出発し、昼頃にケニヤ山の登山口であるナルモルゲートに着いた。入口には美人だが迷彩色の軍服を着てライフル銃を担いだレンジャーの女性が立っていた。象の密猟者を発見したら射殺しても良いとの事。ここで5人のポーターに紹介された。ここからガタガタ道だが車も通れる広い山道をゆっくりとメッツステーションまで登って行った。8人程泊まれる2段ベッドの立派な山小屋が数軒建っている。翌日はもう森林限界で、日本では見慣れない奇妙な形のサボテンなどを見ながら広い沢の左岸をゆっくりと登って行き、沢を右岸に横切ったらほどなくマッキン

ダーズキャンプに着いた。ここは石造りの大きな一軒家で我々以外には6人程のヨーロッパ人パーティーがいた。ここまで登ってくる途中で小雨が降ったが 4500m 以上は雪だったようで、山の上部は真っ白に覆われている。18 日は午前 2 時に起床し、コーヒーとクッキーの簡単な朝食の後、3 時に出発した。登るに連れて少し頭が痛くなり、我々のペースが遅かったので後から出発したヨーロッパ人パーティーに追い抜かれたが、7 時 50 分にケニヤ国旗が立っている頂上に到着した。下りは快調に飛ばして 15 時半にメッツステーションに到着し、そこから車でナイロビに帰った。

ケニヤ山（レナナ峰）頂上

20 日朝、車でタンザニアの国境に向け出発した。昨日はゆっくりとケニヤの国立博物館や民族ダンスを見に行ってゆっくりしたおかげで我々3 人の体調は万全である。途中で食料の買い出しなどをして 14 時頃国境を越え、18 時半にタンザニアのモシという町に着いた。21 日の登山開始日、モシのバスセンターでアシスタントガイドと 7 人のポーターに紹介され、皆で登山口のマラングゲートまで車で出発しようとしたら旅行社の手違いで本日の宿泊地であるマンダラハットの宿泊客が一杯なので一日延期となった。翌 22 日、今度は何事もなく 10 時に登山口から登り始める事が出来た。1 日目は森の中の気持ちの良い登山道である。2 時間程登った所で、上から猛烈な勢いで、底に 1 輪車が付いた担架を引っ張った 4 人のポーターが走り下って来た。担架には寝袋にくるまった人がいる。高山病でやられたらしい。その後 4 日間の登山中に 5 件の担架移送を見た。うわさではその内の 3 件が日本人との事であった。この日の宿泊地であるマンダラハットは森の中に 4 人ベッドのキャビンが点在する素晴らしいキャンプサイトである。我々のガイドのダニエルさんは見かけはゴリラそっくりの屈強な若者だがユーモアに溢れた知的な好男子であった。動植物に詳しく我々に名前を教えてくれるが記憶力の落ちたオジサン達はすぐ忘れてしまう。ケニヤ山と違って大勢の登山客が宿泊しており、その中には東洋人のパーティーもいた。

2 日目からは森林限界となり、乾いた赤茶けた広い道を行く。1 日かかってゆるい勾配を登り約 1000m の高度を稼ぐ。下山して来るポーターや登山客とすれ違う時、もうもうとした土埃が立ち、マスクを持って来れば良かったと思う程だ。8 時に出発して 14 時半に霧がかかった幻想的なホロンボハットに到着した。3 日目も同じように延々と歩いてキボハットに着いた。

キボハットに続く遙かな道

4 日目は深夜 0 時に出発した。23 時に出発したパーティーもいて、我々の出発は遅い方であった。今まではジョッギングシューズで歩いて来たが今日は軽登山靴を履き、日本の厳冬期用の上下の服を着、分厚い手袋を着けて登り始めたら少し暑く感じて来た。ところが上に行くに連れてしんしんと冷えて来た。手足の先が冷たい。無風だったからこの程度で済んだが、風があったら大変な寒さであったろう。今までのなだらかな登りと違って富士山のような傾斜で

ある。満天の星と、ずっと上を登っている登山客のヘッドランプが入り乱れて美しい。砂地の急傾斜道をジグザグに登り、岩場の道になってしばらく登るとギルマンズポイントであった。これで一応キリマンジャロに登ったという資格が出来たが、富士山でも剣ヶ峰が本当の頂上であるのと同様、最高点はここから約 1 時間半歩いたウフルピークまで行かねばならない。ケニア山に登った為、高度順応が出来ていたのか頭痛もしなかったが、それでも登りは苦しく、ゆっくりとしたペースで登り、6 時 45 分にピークに着いた。

キリマンジャロ（ウフルピーク）頂上

大勢の登山客がいて最高点の看板をバックに写真を取る順番待ちが出来ている。頂上には氷河があり大きく見事なものであったが、すごい速度で減少していて、あと 20 年後には消滅の可能性があるとの事。逆に 20 年前の氷河はさぞ長大で見事であった事だろう。

頂上付近の氷河

下りは富士山の砂走りのような場所を一直線に駆け下りてあっという間にキボハットに着き、2 時間ほど休憩した後出発。快調のペースでホロンボハットまで下って宿泊し、翌日登山最終日は朝 6 時に出発して 12 時に登山口のマンダラゲートに着き、オケチさんと再会。車で国境のナマンガまで行ってツーリスト用の瀟洒なホテルに泊まった。

翌日(9/27)は 5 時にホテルを出発してアンボセリ国立公園へ行った。オセチさんはすごい視力をしていて車を運転しながら色々な動物を教えてくれるが、こちらはその方向に双眼鏡を向けてやっと気づく始末である。今年は異常旱魃との事でバッファローに似たヌーの餓死死体が方々に見られた。それでもキリマンジャロの雪解け水が地下水となって地表に現れている水場は緑の草で覆われ、象やカバ、シマウマなどがゆったりと草を食べていた。この日は現地のホテルに泊まったがキャンバス地で作られたコテージの設備も素晴らしく、食事も美味しくてナイロビのホテルよりずっと快適であった。ライオンの夫婦や、尻尾を旗のように立てて走るイボイノシシなど 20 種以上の色々な動物を見せてもらい大満足でサファリツアーを終え、28 日夜にナイロビに帰り着いた。

アンボセリ国立公園の水場

アラビア首長国連邦のドバイを本拠地とするエミレーツ航空の飛行機も快適で、10 月 1 日楽しいアフリカ旅行を無事終了する事が出来た。

会員雑感

思うだけでも

荒木浩二

カッとした暑さを感じた思いの無かった今年の夏であったと思う。雷雨注意報が気になって下山したら駐車場では晴れ。梅雨入り前での雨の中の登攀訓練あたりから何か天気には見放されたようであった。

そして遭難の報道である。片方は低体温症で8名、もうひとつは転落で1名（残念であるが身近な方）。状況については新聞と山岳関係の雑誌からのものに頼るしかないのであるが、この中で思った事がある。

前者の方は、一方は、経済的利益を求める会社社員の労働行為と、山中での運動行為による達成感を求める個人の行為により構成されており、他方は達成感を求める個人のみである。この違いは大きいのではなかろうか。

会社は、営業用として避難小屋を占拠する計画だったとの記事があった。これについて記事を信用すると、自分のこれまでから見て登山の域外での行為を山の中で実行することが必要とされているように思える。

一方、引率された方々は会社側の背景については関係が無いままは当然として行為に入るが、低温、強風雨の中で1時間半近くの停滞をしたとの記事がある。登山する者、指示する者として、その場の状況もあろうが必要な対応が欠けているように思える。停滞の間に食事をしたり衣類を加えた人がいたようだが、歩行困難になった人のみへの注意だけで他の人への指示は具体的にあったのだろうか？また指示が無くても各人が「これは変だ」と思わなかったのだろうか？ここで変だと思い、指示を求めた人がいたが返されたのは「すぐ出発します」との事。また、その指示に従っている。雪渓登行の時にアイゼンを着けるのに社員に手伝ってもらった人がいたとの記事からみて、もっと深い所に問題があるようにも思える。

このような背景無しの後者は、詳細な記事が無く、世間を騒がせた事にはならなかっただけに、自分としては大きな反省を強いられた。つまり、山好きの全てが守らなければならない平凡な重大事が欠けていたのではないかと思うからである。表現は不味いかも知れないが「一事、一歩への集中」であろうか。

「山」という場所では、背景の異なる方々が行動している。主たるものは生計を目的としている方々だと思うが、その一つにプロガイドが入ると思う。山好きの方々と問題なく共存する場合が殆どだと思うが山好きの方のみの遭難と同様に事は起きている。この他に山好きと同じに生計に関係なく行動しているもの、フリークライミングおよびトレイル・ランの方々がいる。本人の好みであろうが行動目的の異なるものが同一地点で同時に行動するからには調和は成立しないと思う。

加えて山中行動を管理する官庁も一つではなく、「場合によっては当方の対象ではありません」との事があった。

救助とその関係については、山中行動する場合の立場を認識して欲しいと思う。少し前の事だったが、転落した方を稜線まで引き上げたら、その方が「自分のザックは落ちて下にある、それを引き上げるのはお前等の責任だ」と言われたとある人が語っていた。

捜索、救助、収容と幾分関わって来た自分として、この夏の事にはもどかしさを感じると共に気を引き締めなおす事となった。亡くなられた方々のご冥福をお祈りいたします。

（最終の駒ヶ岳への山旅）**右足首負傷の記**

三浦　昭鎚（2009 年 9 月 26 日 記）

僧ヶ岳(1,855m)と駒ヶ岳(2,002m)の間は吊り尾根となっており丁度その最低鞍部にさしかかった。この先は初めて歩く道である。11 月初旬の黒部の山なので今日は一点の雲も無い快晴ではあるが周辺の潅木にはつららが下がり夜の寒気で付いたと思われる霜が潅木の木肌や枯葉にびっしり付着し、これまた美しい景観をなしている。左手には後立山の山々が上半身を真っ白に雪で装い、右手にはこれまた白く山が見え、先頭を行く K さんが「あれは加賀白山」と教えてくれた。眼前には毛勝山が圧倒的な質感のある迫力で鎮座している。行く手には北駒ヶ岳～駒ヶ岳と見え、その後背には剣岳が見えるという。

昭和 61 年に駒ヶ岳登山を念願してからまあまあのペースで大部分を登ったが、ここだけはいつまでも登れなかった。そもそもは僧ヶ岳～駒ヶ岳間には登山道が無く、冬もしくは残雪期にわずかに登られていた。当時、私はまだ現役だったので少ない時間を割いて行っても僧ヶ岳どまりで中々その先には行けずに引き返すことが多かった。それが 2002 年(平成 14 年、午年)に宇奈月町が[2002 年と 2002m]および[午と駒]に着目して登山道をつけた。ところがその頃私は老母の介護中であり、とても行けず、老母が天寿を全うした後もさしたる時間もおかずに家内が膵臓ガンに倒れ、2 年弱の闘病の末に永眠した。

そしてやっと悲しみから解放された時、私もいつのまにか高齢になっていた。そして多少自信喪失の状態にあったとき駒ヶ岳ファンクラブの K さん(富山県入善町在住)が「ミウラさんいつでも来いよ、案内してやるから」という声に乗っかり今回(平成 20 年 11 月 5 日)の山行が実現したわけである。

ついに 5～10cm に積雪した山頂に立った。永年の感慨の成就を味わい 360 度の展望を楽しみ「銀嶺立山」を飲み下山にかかった。先頭は K さん、しんがりは K さんの友人のやはり入善町在住の S さん、私は 2 人にサンドイッチされての三人連れである。この季節の登山道は落ち葉の下にアイスバーンがあったり、一見なんでもないように見えカチンカチンに凍っていたりで注意しなければならないことは分かっていたが山頂直下の岩場を過ぎまあまあの下り傾斜を降りているとき突然左足が滑った。

ぶざまに転ぶことはなかったが右足を登山靴の剛性もあり不自然に折り敷いたまま、その上に尻餅をついてしまった。その時、右足に激痛が走り、なんらかのダメージを負ったなと直感した。起き上がり歩いてもバランスをとるような動作のときに激痛が走り、力が抜け転んでしまうので携行しているストック(ストックは使わなかったが万一を考え携行していた)を使うことにした。

ストックを使うとなんとか歩けた、痛みはあるものの転ばないで歩けた。こうして登山口まで約 2 時間歩いた。登山口についたときは正直、ホッとした。出来るだけ平静を装っていたため 3 人はお定まりの山麓の温泉で汗を落とし、入善駅前で打上げをして私はまっしぐらに帰宅した。自宅玄関では靴を脱ぐのに足が腫れたためか大変難儀した。

翌日、病院で X 線検査の結果、右足首の腓骨(ヒコツ)骨折とのことですぐにギブスを巻かれてしまい、1 ヶ月後に来いとのことであった。膝から下は脛骨(ケイコツ)と腓骨からなり主として脛骨は重量を支え腓骨はバランスをとるように機能しているとのことである。1 ヵ月後に通院しギブスを外し X 線を撮ったが、歳なので回復の状況は遅いがまあまあだという。「来年、春一番が吹くまではおとなしくしているように」という医者のコメントだった。本年、春一番が吹くまでは医者の言葉を守って激しく足を使うようなことは避けたが 2 月中旬、春一番が吹いたので徐々に山行というか歳なので山旅という形で山歩きを始めた。

山にも相性のいい山、悪い山があるような気がする。黒部の駒ヶ岳は何回行っても僧ヶ岳で敗退してきたし、登れたとおもったら右足首を

負傷してしまった。相性の悪い山なのかもしれない。

もう一度、無傷で登って初めて登ったといえるのかなあ、と思ったりしている。

（NHK ハイビジョン特集・日本の名峰）

剱岳測量物語 ～ 明治 40 年「点の記」

山田　明

今年の夏、NHK の番組制作のため、剱岳周辺の 5 点の三角点を回っての撮影行に参加、出演した。10 月 17 日放映予定、皆さんのなかでもご覧になった方がいるかと思います。

制作者側の意図は①柴崎測量官が三角点の「点の記」に書いた順路を忠実に辿って登る事、②三角点、櫓の材料、観測器材等の運搬がいかに大変であったかを実証する事でした。

この原稿を書いている時点ではどんな番組にま

三角点「別山」と河邊カメラマン(左)

岩、雪と過酷なものでした。

私個人としてはこの話がきた時に「黒部別山に登れるなら喜んで参加します」と答えています。この夏最大の収穫がこの黒部別山の北峰にある三等三角点「倉ノ助 1」に出会えた事でした。今回剱岳に 2 回登り、これが 10 回目、その内 6 回は仕事で登った事になります。

番組の中に時々写っているこの番組を作った人々を写真で紹介します。

剱岳山頂、明治 40 年の測標はマイクポールの位置、前列私の左が草嶋ガイド

三角点「倉ノ助 1」真砂沢ロッジから 6 時間、途中から道なし、藪こぎ

黒部別山主峰、後ろに剱岳、写真中央上部の白い雪渓を登った

（故）長通 元 氏への弔辞

長通　元　会員（No. 14547）が、去る8月3日にお亡くなりなりました。享年69歳、謹んで哀悼の意を表しご冥福をお祈りいたします。

長通元様の御霊に

奥井清･登美子

7 月 10 日、日本山岳会茨城支部で初めての試みとして、『障害児と山に登る会』の打ち合わせ会がありました。

その時、私が「人間、誰でも老人になって、最後の時は身体障害者の過程を通るのだから、障害のある人はもしかして私達の未来かも知れない。」と言ったら、長通さんが「そうだ、そうだ、良い事こと言うなあ」そういう事をあまりおっしらない貴方が珍しく同調してくださいました。そして熱心に「障害児の支援の為の活動をこれからも続けて行きたい」と真心こめてしみじみと語っておられました。

8 月 4 日､滑落の新聞を見て貴方の死を知り、ショックを受けました。老人にならないで、元気に身体障害者の過程をパスして亡くなるなんて、ずるい、ずるい、ずるい・・・・・・。

貴方の遺志を活かして、これからも障害児の支援のための活動を続けて行きたいと思います。

大好きだった山に近い天国から笑って見守っていてください。

弔辞

山田　明

長通さん、私が最後の挨拶をすることになりました。40 年間お付き合いさせていただきましたが、過ぎてみればあっという間の 40 年でした。あの頼りない若者（私のことですが）は来年還暦です。私が先輩に別れの挨拶をするのは順序としては正しいのですが少し早い気がします。

最初にお会いしたのは目黒の庁舎 4 階、測地第 2 課でした、そのあと関東地測でも一緒でした。仕事ではお世話になりました、とは言いにくく、正直言いますと時々お世話をいたしました。

なぜか長通さんは私を自分の住んでいる所に連れて行くという癖がありました。私はこの 4 月末に大阪から東京に転勤しました。今毎日通っているのが板橋です。長通さんの実家が確かこの近くでした。泊めていただいて翌朝、お母上の作られた朝ご飯ごちそうになりました。おいしかったです。

長通さんは若い頃いろいろとありまして、詳しくは言いませんが、武勇伝あり不祥事あり大変だったのです。この人は人並みの結婚はできないだろうと勝手に思っていたのですが、いい人に巡り合い結婚します。この奥様の松本の実家にも泊めていただきました。広い庭と池があったことを覚えています。お子さんが生まれたころでしょうかアパートにもおじゃましました。竹園の官舎、梅園のご自宅にはご家族のいない時に案内されました。先輩は数多くいますがこんな人は他にはいません。

私が最も影響を受けたというかほぼ対等に、お付き合いできたのが山の世界でした。お互い違う山岳会に所属していました。国土地理院山の会に入会した記憶と、記録ははっきりしていないのですが、途中から二足の草鞋をはくこと

になります。最初に長通さんと行った山が 70 年の末、冬の白馬杓子岳双子尾根でした。2 回目が翌年の 1 月 15 日成人の日、私の祝成人山行として八ヶ岳権現沢左俣、私は氷の滝を 2 回滑落、軽い足首ねんざのまま雪の岩稜でビバーク、長通さんの持っていた餅をアイゼンを餅網にしてローソクで焼いて食べました。狭いツエルトの中、国見さんと 3 人で寒さのため眠れない夜を過ごすには時間がかかっていい暇つぶしにはなりました。この 2 回の山行でザイルのトップをやらせてもらったため、以降毎回トップをやることになります。このころの地理院山の会はレベルが高く次は豪雪の頚城山塊海谷に入ります。秋に前島さんと 3 人で偵察とデポと称して海谷の発電所まで行きます。適当に荷物をデポして帰るのですがこの時発電所とコンタクトできたことが、後で生死を分けるほどの意味を持つことになります。この正月糸魚川から雨飾山目指して縦走が始まります。疲労困憊の 3 日目、テントの中で事故が起きます。海谷側に怪我人を下ろし、正月の 2 日、雪の塊の流れる川を怪我人を背負ったまま何回も渡ります。取水口の小屋にたどり着き、発電用の送水管の水を止めてけが人を救出します。これ以外の方法はなく、秋のコンタクトが役に立ち無事糸魚川の病院まで運びます。すごい山でした。

このあと私は日本を 2 年間離れます。帰国後も前ほど山には行かなくなりました。5 年近いブランクがあり、長通さんがヒマラヤ遠征を言い出します。登山許可を取るため 2 人でネパール観光省との交渉に行きます。合宿もして 82 年冬が来る前の 11 月、私と大桃が先発します。ここから正味 2 ヶ月ネパールに滞在、これからがまた実にいろいろあるのですが、12 月 24 日キャリオルンに登頂します。この遠征は長通さんなしでは実現しなかっただろうというもので、オーガナイザーとしての力量には敬意を表します。私は長通さんに登らせてもらったと思っています。感謝しています。

この後 25 年間長通さんは山に行かなくなります。実はこのごく最近の山との巡りあわせと、長通さんとの関わりに妙な偶然を感じています。先週私は北岳に登りました。二俣からちょうど霧が晴れたバットレスを小野塚と 2 人で見ていました。長通さんと初めて岩壁登攀でザイルを結んだ 4 尾根がここです。小野塚と 3 人でした。次の週、長通さんが僧ヶ岳へ、そして、来週から 3 週間私は剣岳周辺に入るのですが、ここでは長次郎谷から八峰を登ります。74 年 4 月、私が唯一長通さんと 2 人だけでザイルを結んで登ったルートが 6 峰 C フェースです。この時は長通さんが遅れ、私が 1 人剣沢小屋に連絡に走り、剣沢小屋を出た佐伯富男さんと会いました。心配して迎えに出たところでした。以降 20 数回、一緒に山に行くのですが、2 人だけでザイルを組むということはありませんでした。

この 25 年間の空白を破ったのが地理院山の会の創立 40 周年山行、谷川岳でした。一昨年です。雨の天神平から歩きだした私たちのパーティーに最初長通さんはついて来れませんでした。途中で引き返すものと思っていたら、いつのまにかペースを上げてついに山頂まで辿り着きました。これが自信になったのだと思います。去年 1 人で槍ヶ岳に登ってきたと電話がきました。そして今年の春、僧ガ岳付近で足首ねんざ、病院に行ったとの連絡。電話はよくかかってきました。この山の前にも電話があり、次はお前も来いと言われていました。長通さんの北方稜線から剣岳の話はだいぶ前から聞いていたのですが私は全く乗り気でなく、今回も色よい返事はしませんでした。もう体力の衰えは隠しようがないんだから無理しないようにと話して電話をきりました。それが私の聞いた最後の長通さんの声でした。

遭難の知らせを受けた時は、なぜかあまり驚きませんでした。残された家族の皆様には、こんなことを言うのは誠に申し訳ないのですが、私としては、他の人はこんなことは言わないでしょうが、私は長通さんに言いたい。あなたはみごとに、山男らしく、壮絶な死に方をした。しかも耳にたこができるほど聞かされた、あの大好きだった登嶺会のパーティーとして登った。嬉しかったんだろうと思います。悔いはないはずですよね。それに比べると私は、老残の

身をさらして、しぶとく、みっともなく、この先生きていくつもりです。

そちらには、岡部さん、大西さん、柏村さんがいます。山の会の会員数に比べるとそちらに行った人の数が多い気もしますが皆様によろしくお伝えください。

生きている時に言えばよかったかもしれませんが、照れくさくて言えませんでした。長通さん、あなたは不思議な人でした。好きかと聞かれれば少し返答に困りますが、なぜか気になる人でした。でも決してきらいではありませんでした。おそらくそんな気持ちを持った人たちがたくさん、昨日と今日、長通さんのために集まってくれました。けんか相手だったけど、一番の理解者だった前島さんもかけつけました。見えますか？その人たちが？長通さん。もうすぐお別れです。お元気でというのはおかしいでしょうか。どうか安らかにお安みください。
40 年間ありがとうございました。お別れします。

平成 21 年 8 月 6 日　立秋の前の日に

あとがき

編集者から

昨年、この会報の創刊号の編集をしましたら、その出来具合を浅野事務局長をはじめとして役員の方々から褒められ、嬉しくなってとうとう今年も編集を担当する羽目となりました。

本支部の第 1 回目の海外登山であった台湾の玉山と雪山登山は残念ながら台風の為キャンセルとなりましたが、その代わりに韓国の山で楽しい山行をされたようです。その他にも個人山行として世界各地の山の紹介もあり、会員の皆様方の力作のおかげで今回も読み応えのある会報になったと思います。

文末に、今年の 8 月に僧ヶ岳で亡くなられた長通さんへの弔辞も掲載しました。改めてお悔やみ申し上げます。　（川久保）